

MAEBASHI FOCUS

国際交流員 (CIR) ニュースレター

皆さん、ハウディ!

まだ6月の上旬だというのに、もう真夏のような暑さですね。今年初めて日本の“隠れた第五の季節”とも言われる「梅雨」を迎えます。評判通りの蒸し暑さなら、きっと地元を思い出すことになりそうです。私の地元では湿度がとても高く、一歩外に出るだけでまるで水の中を歩いているような気分になります。

そんな暑さもあって、今月は思い切ってみなかみでラフティングに挑戦してきました!

実は、これまで一度もラフティングをしたことがありませんでした。せいぜい10歳くらいの頃に小さな湖でカヌーに乗ったことがある程度で、今回の体験はまさに未知の世界でした。それでも参加を決めた理由は、群馬のJETコミュニティではラフティングやキャニオニングが特に有名なイベントだと聞いていたからです。実際、群馬への配属が決まって調べ始めた頃に、最初に耳にしたイベントのひとつでもありました。

このイベントは、GAJET (群馬JET) とツアー会社Canyonsが共同で主催しており、3日間にわたって行われました。参加者は金曜の夜か土曜の朝に到着し、日曜まで滞在する形式です。私は土曜日の正午頃に到着し、そのままラフティングへ直行しました。こういうアクティビティには少くも心の準備が欲しいタイプなのですが、考える暇もなく、気づけばラフティンググループのみんなと一緒にバスで川へ向かっていました。

川辺に到着すると、まずは「どうすれば死なずに済むか」という簡単な安全説明を受け、その後すぐに出発しました。私たちのグループは6人編成で、それぞれ異なるバックグラウンドを持つメンバーでした。しかし、その短い時間だけは、激流の中でゴムボートをひっくり返さないよう奮闘する“一つのチーム”になっていました。しかも梅雨時期だったため、水量も多く、流れはかなり激しかったです。

出発すると、ガイドがボート後方から「右!」「前漕ぎ!」などと指示を飛ばし、私たちは必死にパドルを動かしました。最初は息が合わず少しバラバラでしたが、徐々にリズムを掴み、スムーズに川を下れるようになっていきました。



急流エリア



グループの皆さんと私

急流エリアに入ると、ボートは容赦なく揺さぶられ、私たちは振り落とされないよう力を尽くしていました。しかし、ある特に激しい場所で、前方に座っていたメンバーがボートから吹き飛ばされてしまいました。幸い、安全講習で教わった通り、一番近くにいたメンバーがライフジャケットの持ち手を掴んで彼を引き上げ、その間ほかのメンバーは激流の中でボートを安定させようと一生懸命に踏ん張っていました。



宿泊先周辺の景色

コースの終盤に差しかかる頃には、周囲の景色を楽しむ余裕も出てきました。山々にかかる霧は、曇りの日に訪れた日光を思い出させました。川沿いに並ぶ廃ホテルや古いリゾート施設は、まるで自然に少しずつ飲み込まれていくように見えました。

偶然にも、川に落ちたその参加者は実際にみなかみに住んでいる人で、道中いろいろな場所を教えてくださいました。なんと、彼のアパートの前まで流れていったほどです!

そして最後の急流を笑いながら乗り越えたあと、私たちは全身ずぶ濡れのままバスへ戻り、その日の宿泊先であるキャンピング場に向かいました。

夕方になると、みんなでバーベキューパーティーをしました。串焼きやソーセージ、ステーキ、野菜など、さまざまな料理が並び、参加者の二人が準備してくれました。夜遅くまでゲームをしたり、JETプログラムでの経験について語り合ったり、新しい友達を作ったりしながら、楽しい時間を過ごしました。

翌朝は早起きして、数人の友人と一緒に前橋へ戻りました。今回の経験は本当に忘れられないものになりました。ラフティング自体が楽しかったのはもちろんですが、それ以上に、一緒にその時間を共有できた人たちのおかげで特別な思い出になったと思います。